

# 感染症等による登園基準について

山口保育園

厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿った登園基準についてお知らせいたします。

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、子どもたちが一日快適に生活できるよう、また、感染力のある期間等に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での園生活が可能な状態となつてからの登園であるようご配慮とご協力をお願いいたします。

## 1 発熱の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<b>発熱期間と同日の回復期間が必要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝から 37.5℃ を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い</li> <li>食欲がなく朝食、水分が摂れていない</li> <li>24 時間以内に解熱剤を使用している</li> <li><u>24 時間以内に 38℃ 以上の熱が出ていた</u></li> </ul>	<b>前日 38℃ を超える熱が出ていない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>熱が 37.5℃ 以下で元気があり、機嫌がよく顔色がよい</li> <li>食事や水分が摂れている</li> <li>発熱を伴う発しんが出ていない</li> <li>排尿の回数が減っていない</li> <li>咳や鼻水を認めるが、憎悪していない</li> <li>24 時間以内に解熱剤を使っていない</li> <li>24 時間以内に 38℃ 以上の熱は出していない</li> </ul>	<b>38℃ 以上の発熱があり、(園では 37.5℃ 以上で連絡します)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気がなく機嫌が悪い</li> <li>咳で眠れず目覚めるとき</li> <li>排尿回数がいつもより減っているとき</li> <li>食欲なく水分が摂れないとき</li> </ul> ※ 熱性けいれんの既往児が 37.5℃ 以上の発熱があるときは医師の指示に従う
<b>※ 至急受診が必要と考えられる場合</b> <b>38℃ 以上の発熱の有無に関わらず、</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>顔色が悪く苦しそうなとき</li> <li>小鼻がピクピクして呼吸が早いとき</li> <li>意識がはっきりしないとき</li> <li>頻繁な嘔吐や下痢があるとき</li> <li>不機嫌でぐったりしているとき</li> <li>けいれんが 5 分以上治まらないとき</li> <li>3 か月未満児で 38℃ 以上の発熱があるとき</li> </ul>		

概日 (がいじつ) リズム ヒトの体温は早朝が最も低く、夕方が最も高くなる。朝は一般的に熱が下がる。

## 2 下痢の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>24 時間以内に 2 回以上の水様便がある</li> <li>食事や水分を摂ると下痢がある (1 日 4 回以上の下痢)</li> <li>下痢に伴い、体温がいつもより高めである</li> <li>朝、排尿がない</li> <li>機嫌が悪く元気がない</li> <li>顔色が悪くぐったりしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染のおそれがないと診断されたとき</li> <li>24 時間以内に 2 回以上の水様便がない</li> <li>食事、水分を摂っても下痢がない</li> <li>発熱が伴わない</li> <li>排尿がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事や水分を摂ると刺激で下痢をする</li> <li>腹痛を伴う下痢がある</li> <li>水様便が 2 回以上みられる</li> </ul>
<b>※ 至急受診が必要と考えられる場合</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>下痢のほかに機嫌が悪く食欲がなく発熱や嘔吐、腹痛を伴うとき</li> <li>脱水症状と思われるとき               <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 下痢と一緒に嘔吐</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 唇や舌が乾いている</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 水分が取れない</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 尿が半日以上出ない (量が少なく、色が濃い)</li> </ul> </li> <li>米のとぎ汁のような水様便が数回出る</li> <li>血液や粘液、黒っぽい便の時</li> </ul>		

### 3 嘔吐の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間以内に2回以上の嘔吐がある</li> <li>・嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである</li> <li>・食欲がなく、水分も欲しがらない</li> <li>・機嫌が悪く、元気がない</li> <li>・顔色が悪くぐったりしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染のおそれがないと診断されたとき</li> <li>・24時間以内に2回以上の嘔吐がない</li> <li>・発熱がみられない</li> <li>・水分摂取ができ食欲がある</li> <li>・機嫌がよく元気である</li> <li>・顔色がよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咳を伴わない嘔吐がある</li> <li>・元気がなく機嫌、顔色が悪い</li> <li>・2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く</li> <li>・吐き気がとまらない</li> <li>・お腹を痛がる</li> <li>・下痢を伴う</li> </ul>
<b>※ 至急受診が必要と考えられる場合</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐の回数が多く顔色が悪いとき</li> <li>・水分が摂取できないとき</li> <li>・頻回の下痢や血液の混じった便が出たとき</li> <li>・脱水症状と思われるとき               <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 尿が半日以上出ない</li> <li>☑ 落ちくぼんで見える目</li> <li>☑ 唇や舌が乾いている</li> <li>☑ 張りのない皮膚や陰囊</li> </ul> </li> </ul>		

### 4 咳の場合

保護者への連絡が望ましい場合	※ 至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・咳があり眠れないとき</li> <li>・ゼイゼイ音、ヒューヒュー音があるとき</li> <li>・少し動いただけでも咳が出るとき</li> <li>・咳とともに嘔吐が数回あるとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼイゼイ音、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき</li> <li>・犬の遠吠えのような咳が出るとき</li> <li>・保育中に発熱し、息づかいが荒くなったとき</li> <li>・顔色が悪く、ぐったりしているとき</li> <li>・水分が摂れないとき</li> </ul> <p>※ 突然咳きこみ、呼吸困難になったときは異物誤えんの可能性があります。異物を除去し、救急車を要請します。</p>

### 5 発しんの場合

※ 至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発しんが時間とともに増えたとき</li> </ul> <p style="text-align: center;">発しんの状況から、以下の感染症の可能性を念頭に置き対応します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ かぜのような症状を伴う発熱後、一旦熱がやや下がった後に再度発熱し、赤い発しんが全身に広がった（<b>麻疹</b>）</li> <li>☑ 微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱が出た（<b>手足口病</b>） ※ 膝やおしりに発しんが出ることもある</li> <li>☑ 38℃以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発しんが出た（<b>突発性発しん</b>）</li> <li>☑ 発熱と同時に発しんが出た（<b>風しん、溶連菌感染症</b>）</li> <li>☑ 微熱と同時に両頬にりんごのような紅斑が出た（<b>伝染性紅斑</b>）</li> <li>☑ 水疱状の発しんが出た（<b>水痘</b>） ※ 発熱やかゆみには個人差がある</li> </ul> <p>※ 食物摂取後に発しんが出現し、その後、腹痛や嘔吐などの消化器症状や、息苦しさなどの呼吸器症状が出現してきた場合は、食物アレルギーによるアナフィラキシーの可能性があり、至急受診が必要になります。</p>

## 主な感染症と登園の目安

感染症名	登園の目安	症状・特徴
麻疹（はしか）	解熱後3日を経過していること	高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日経過していること	突然の高熱が出現し、3～4日続く。倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状、咽頭痛、鼻汁、咳等の気道症状。
風しん（三日はしか）	発しんが消失していること	発しんが顔や頸部に出現し、全身へと拡大。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血を伴うこともある。
水痘（水ぼうそう）	全ての発しんが痂痂（かさぶた）化していること	発しんが顔や頸部に出現し、やがて全身へと拡大する。発しんは、斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱（水ぶくれ）となり、最後は痂痂（かさぶた）となる。
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ、ムンプス）	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること	発熱と唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）の腫脹・疼痛
結核	医師により感染のおそれがないと認められていること	全身に影響を及ぼす感染症だが、特に肺に病変が生じることが多い。慢性的な発熱（微熱）、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ等。
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過していること	高熱、扁桃腺炎、結膜炎
流行性角結膜炎（はやり目）	結膜炎の症状が消失していること	目が充血し、目やにが出る。目に膜が張ることもある。片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することがある
百日咳	特有な咳が消失していること又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了していること	特有な咳（コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸うもの）が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。夜間眠れないほどの咳がみられることや、咳とともに嘔吐することもある。
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111等）	医師において感染のおそれがないと認められていること	水様下痢便や腹痛、血便
急性出血性結膜炎	医師により感染のおそれがないと認められること	強い目の痛み、目の結膜（白眼の部分）の充血、結膜下出血。また、目やに、角膜の混濁等もみられる。
侵襲性髄膜炎菌感染症 （髄膜炎菌性髄膜炎）	医師において感染のおそれがないと認められていること	発熱、頭痛、嘔吐
溶連菌感染症	抗菌薬の内服後24～48時間が経過していること	扁桃炎、伝染性膿痂しん（とびひ）、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎等
マイコプラズマ肺炎	発熱や激しい咳が治まっていること	主な症状は咳であり、肺炎を引き起こす。咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくり進行する。特に咳は徐々に激しくなり、数週間に及びこともある。
手足口病	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること ※ 発熱や咽頭痛、下痢がみられる場合や食べ物が食べられない場合には登園を控えていただき、全身状態が安定してから登園を再開していただく	口腔粘膜と手足の末端に水疱性発しんが生じる。発熱と喉の痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水疱が生じる。
伝染性紅斑（りんご病）	全身状態が良いこと	発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛等の軽微な症状がみられ、その後、両側頬部に孤立性淡紅色斑丘しんが現れる
ウイルス性胃腸炎 （ノロウイルス・ロタウイルス感染症）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	嘔吐と下痢が主な症状で、脱水を合併することがある

感染症名	登園の目安	症状・特徴
ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること ※発熱や咽頭痛、下痢がみられる場合や食べ物が食べられない場合には登園を控えていただき、全身状態が安定してから登園を再開していただく	発症初期には、高熱、のどの痛み等の症状がみられ、また、咽頭に赤い粘膜しんがみられ、次に水疱（水ぶくれ）となり、間もなく潰瘍となる。高熱は数日続く。
R S ウイルス感染症	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	呼吸器感染症で、乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6か月未満の乳児では重症な呼吸器症状を生じ、入院管理が必要となる場合も少なくない。
ヒトメタニューモウイルス	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	咳、鼻水、発熱などかぜに似た症状で、R S ウイルスと同じ特徴を持っている。乳幼児や高齢者に感染すると気管支炎や肺炎を起こしやすい。
帯状疱疹	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化していること	
突発性発しん	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと	3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消えてなくなる
新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで ※発症から10日を経過するまでは、マスク着用を推奨する	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、臭覚異常等